

令和4年度シラバス (地理歴史)

教科 (科目)	地理歴史 (世界史A)	単位数	2単位	学科・学年・コース	全学科 2学年
使用教科書	第一学習社 『高等学校 改訂版 世界史A』				
副教材等	第一学習社 『新版二訂 ダイアログ世界史図表』				

1 学習目標

近現代を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、人類の課題を多角的に考察することによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ①各時代において世界と日本を関連づけて理解することを目指します。
- ②年表や地図及びその他の資料を積極的に活用し、具体的なイメージを構築することを目指します。
- ③政治、経済、社会、文化、宗教、生活など様々な観点から歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養います。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	第2編 世界の一体化と日本 第1章 ユーラシアの諸文明 ・東・南・西・東南アジア世界の形成 ・ヨーロッパ世界	教科書 資料集	・アジア地域の歴史を学び、人々の生活や文化について理解する。 ・ヨーロッパ諸地域の歴史的展開と特質を現代と関連付けて考察する。	5	授業の取組 課題等の提出
5	・アフリカ・アメリカの世界 ・ユーラシアの海・陸の交流 ・1学期中間考査	教科書 資料集	・アフリカ・アメリカの歴史的展開とその特質を現代と関連付けて考察する。	7	授業の取組 課題等の提出 定期考査
6	第2章 結びつく世界と近世の日本 ・14世紀～17世紀の東・南・内陸・西アジアの再編 ・大航海時代とアメリカの変容	教科書 資料集	・アジアの諸王朝の政治制度について理解し、考察を深める。 ・大航海時代による世界の一体化の過程を学ぶ。	7	授業の取組 課題等の提出
7	・ルネサンスと宗教改革 ・ヨーロッパ主権国家体制の成立 ・17世紀～18世紀のヨーロッパ ・1学期期末考査	教科書 資料集	・ルネサンス、宗教改革、絶対王政などを通してヨーロッパの文化と政治体制について理解を深める。	7	授業の取組 課題等の提出 定期考査
8	・世界商業の展開 ・科学革命と啓蒙思想	教科書 資料集	・世界貿易による世界の一体化の過程を学び、現代と関連させる。	2	授業の取組 課題等の提出
9	第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 ・産業革命と労働運動 ・アメリカ独立革命とフランス革命 ・ナポレオンとウィーン体制	教科書 資料集	・産業革命、市民革命が世界に与えた影響を学び、その政治体制と現代との類似・相違点を比較し、民主政治についての考察を深める。	7	授業の取組 課題等の提出
10	・2学期中間考査 ・イギリスの繁栄とフランスの革命 ・イタリア、ドイツの統一 ・ロシアの近代化とアメリカの膨張	教科書 資料集	・ウィーン体制の特質と、ヨーロッパ各国の統一について学び、ヨーロッパ各国の歴史について理解を深める。	7	授業の取組 課題等の提出 定期考査

11	第4章 アジア諸国の変貌と近代の日本 ・西・南・東・東南アジアの変動 ・中華帝国の動揺 第3編 地球社会と日本 第1章 帝国主義の時代 ・帝国主義の時代	教科書 資料集	・ヨーロッパの進出期としての18世紀以降のアジア諸国の状況を日本の対応と関連付けて理解を深める。 ・帝国主義の世界政策により世界がどのように変容したか追求する。	7	授業の取組 課題等の提出
12	・2学期期末考査 ・列強の世界政策 第2章 急変する人類社会 ・大衆の登場と国民統合 第3章 世界戦争と平和 ・第一次世界大戦とロシア革命	教科書 資料集	・19世紀末～20世紀初頭の社会の急激な変化が現代社会の原型を生み出した事を理解する。 ・第一次世界大戦とロシア革命について資料等を活用し適切に表現する。	6	授業の取組 課題等の提出 定期考査
1	・第一次世界大戦後の国際秩序 ・諸地域の民族、独立運動 ・世界恐慌とニューディール ・ファシズムの台頭と第二次世界大戦	教科書 資料集	・第一次世界大戦後の国際情勢と、第二次世界大戦に関する理解と日本の関わりについて考察する。	6	授業の取組 課題等の提出
2	第4章 三つの世界と日本の動向 ・戦後世界の出発 ・アジア諸国の独立 ・第三世界の台頭からベトナム戦争へ ・学年末考査	教科書 資料集	・冷戦構造の成り立ちと進展、多極化と植民地の独立などについて、日本や現代社会と関連付けて理解を深める。	7	授業の取組 課題等の提出 定期考査
3	第5章 地球社会への歩みと課題 第6章 持続可能な社会への展望	教科書 資料集	・1970年代以後の諸地域世界の情勢について資料を活用し考察する。 ・冷戦後の国際秩序の特質と現代社会が抱える諸問題について考察を深める。	2	授業の取組 課題等の提出

計70時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

授業時に配付するプリントや、DVDなどの視聴レポート、考査や学期ごとのノートの提出を課す。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
世界史の学習に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	歴史的事実を踏まえた上で、関連性を持ち考査している。	様々な資料を収集し、それらを効果的に活用している。	全体の変遷を見通した知識を習得している。
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査・課題の取り組み、提出状況・授業への取り組み(授業態度や、学習活動への参加状況)などから総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

世界史を学ぶということは、過去のできごとを知ることだけではなく、現在の世界情勢の様々な諸問題や世界各国の政治体制、世界の人々の文化について深く理解することに繋がります。それは、国際化が進む現代社会で、様々な人々と接する時に必要な資質です。積極的に学習に参加してください。